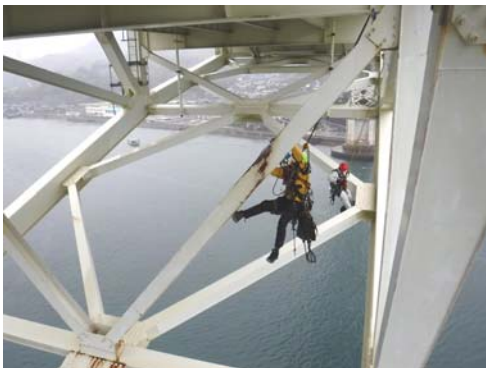


# 産業用ロープアクセス工法

ロープアクセス国際規格  
I S O 22846 準拠



IRATA (アイラタ) は、国際産業用ロープアクセス協会の略称です。  
世界 50 カ国、会員会社 200 社、約 7 万人の技術者が登録されています。



鋼橋調査



甲子園球場バックスクリーン

弊社は国内法 (ロープ高所作業) 及び I S O 22846 で規定されたロープアクセス工法に 100% 準拠し、国際資格保持者 (I R A T A ライセンス) による橋梁調査・法面調査・風力発電ブレード点検補修等を行います。

国際ライセンス保持者も 10 名以上在籍しております。

K Y T ・リスクアセスメントによる徹底した安全管理を行っています。

I R A T A 国際資格を保持する正社員が多数在籍しています。

国際資格検定を弊社で定期的開催し、外部にも広く開放しています。

3 年に 1 度の技術更新検定を受けるため、安定した技術レベルが保てます。

製缶・配管・断熱・塗装・非破壊検査・清掃等、技術者が多数在籍しています。

作業姿勢が確実に保持できるため、地上及びそれ以上の作業能率があります。

ロープの登高・下降・横移動も可能なため、あらゆる作業条件に対応可能です。

全ての作業員がレスキュー技術を持っているため、緊急事態にも対応できます。

## グループ会社一覧



製缶・配管工事・プラント工事  
非破壊検査・橋梁調査  
ロープアクセス高所工事

### トアス株式会社

〒675-0019  
加古川市野口町水足 1575  
TEL 079-423-2344  
FAX 079-423-3616

<http://www.toasu.jp>

空調ダクト工事・保温工事・配管工事  
ロープアクセス高所工事

### トアスジェット株式会社

〒676-0805  
高砂市米田町米田 1098  
TEL 079-432-2452  
FAX 079-432-2484

<http://www.toasu.jp>

ロープアクセス講習・システム開発

### 株式会社ネットワーク

〒675-0038  
兵庫県加古川市加古川町木村 482-5  
TEL 079-422-8501  
FAX 079-422-8507

<http://www.ropeclimbing.jp>

詳細は、藤本 (代表) までお問い合わせ下さい。 携帯 : 090-3276-7556

橋梁点検・非破壊検査



橋梁点検車での調査



橋梁点検・非破壊検査



緊急レスキュー対応リアンカー



ビームスライダーとリアンカー部分



法面調査・岩壁調査



GO-PRO による全壁面 動画撮影



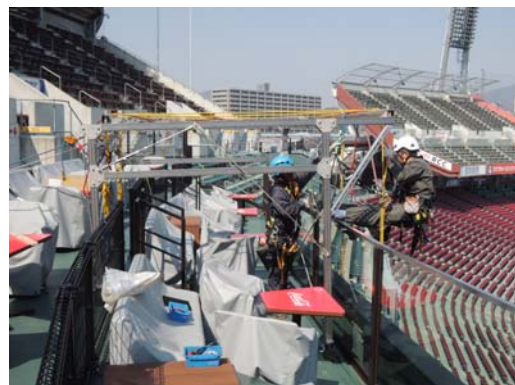
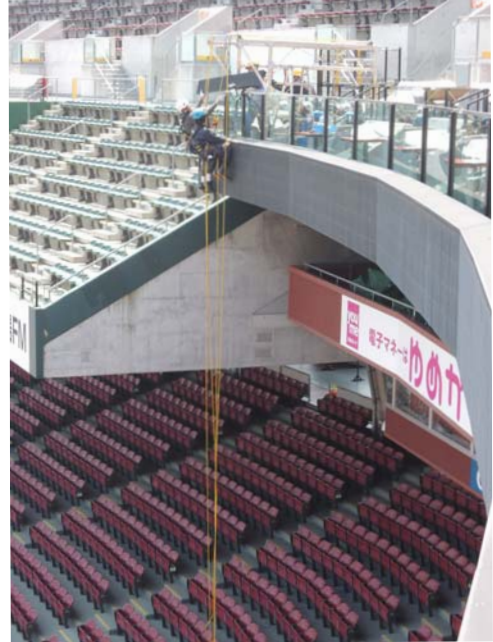
GO-PRO による全壁面 動画撮影



バケットコンベア点検補修



スタジアムLED交換  
(リギングフレーム製作)







製造工場内天井 吊足場設置



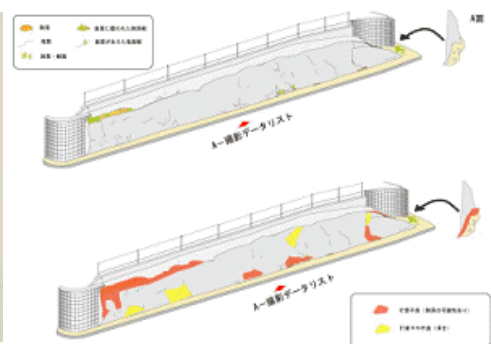
レスキュー隊へのロープアクセス指導



法面コア抜き調査



青森 尻屋 風力発電ブレード補修



打診調査報告



京都・阪神・中京・競馬場大型LED



大型LED メンテナンス



ビル看板撤去



甲子園球場 サブスクリーン



配管設備 変更工事



ビル外壁補修



構造物高所 高圧洗浄



工場天井部での移動作業



製造工場 天井部 エイドクライミング移動



地質調査



国際資格検定は、定期的に弊社トレーニングセンターで行っています。

4日～5日のトレーニングの後、海外から検定管が来日し、国際検定を行います。

level 1は一般作業用トレーニング+基本レスキュー / level 2～level 3のほぼ全ての内容は個人レスキュー及びチームレスキュー技術になります。

I R A T Aではロープアクセス業務の特殊性を考慮し、全てのレベルでレスキュー技術を要求しています。マンツーマンレスキューからチームレスキューまで多彩な技術が習得できます。



アセスメント（検定） / 外国から検定管が来日し、公正な判定を行います。



天井（梁）部分での横移動



ダミー使用によるレスキュー



マンツーマンレスキュー



レスキュー基本手順



レスキュー技術は男女問わず必須



理論講義



固定ボルトの水平エイドクライミング



ディヴィエーションの通過



テンションロープでのレスキュー

## 「国際規格 ISO 22846 準拠」「ロープアクセス技術」とは

山岳クライミングテクニックやケービング（洞窟探検）テクニックに、2ロープシステム等を追加し、より安全な運用基準を体系化した技術が「ISO国際規格準拠 ロープアクセス技術」です。  
ISO 22846-1/22846-2 において運用基準が厳格に規定されており、必ずワーキングライン+セーフティラインの2本のロープを使用する等、多重安全システムで運用する技術を「ロープアクセス技術」と規定しています。

## IRATA（アイラタ）について

Industrial Rope Access Trade Association



IRATAは、ISO 22846 に完全準拠しています。

TWO ROPE

独立したアンカーを持つ2本のロープと接続した状態で作業する。  
（例 メインロープとバックアップロープを1セットで使用する。）

TWO POINT

必ず2箇所以上と接続した状態で作業及び移動する。

ヨーロッパ最大の業界団体「IRATA」はその普及のため、国際安全ガイドライン等の指針を策定し、その普及に力を入れています。世界50カ国、会員会社200社、約7万人の技術者が登録されています。

弊社では国際基準に即したトレーニングと国際資格の取得に力を入れており、国際資格取得検定講習会を定期的に開催しております。多くの資格保持者が弊社トレーニング施設から誕生しています。

特殊な高所での作業環境での緊急事態に即応するため、マンツーマンレスキューや少人数でのレスキュー技術に優れたノウハウを持っています。LEVEL2/ LEVEL3のトレーニングのほぼ全てはレスキュー技術の習得になります。海外での石油プラント工事では、IRATA資格が無い場合、入札にも参加できないほど広く普及しています。

弊社でもLEVEL3 / LEVEL2  
国際資格取得者が続々誕生しています。



## 日本の国内法との関係

### 労働安全衛生法 第518条2

事業者は、前項の規定により作業床を設けることが困難なときは、防網を張り、労働者に安全帯を使用させる等、墜落による労働者の危険を防止するための措置を講じなければならない。

### 労働安全衛生規則に「ロープ高所作業」が規定されました。平成28年1月1日施行 安衛則第539条の2

ロープ高所作業を行うときは、身体保持器具を取り付けた「メインロープ」以外に、安全帯を取り付けるための「ライフライン」を設ける必要があると規定されました。

必ず2本のロープで行うことが義務付けられました。（一部に例外規定もあります。）  
IRATAでもISO 22846でも2ロープは標準仕様です。

IRATA国際検定・一般講習は、以下のインターネット上で受け付けています。

<http://www.ropeclimbing.jp>

詳細は、藤本（代表）までお問い合わせ下さい。 携帯：090-3276-7556